

研究・調査報告書

報告書番号	担当
235	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Neighborhood income and income distribution and the use of cigarettes, alcohol, and marijuana. 地域の収入レベルや収入分布状態とタバコ、アルコールとマリファナの使用について	
執筆者	
Galea S, Ahern J, Tracy M, Vlahov D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Prev Med. 2007 Jun;32(6 Suppl):S195-202.	
キーワード	
地域の収入レベル、収入分布状態、タバコ、アルコール、マリファナ	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>地域の環境と薬物使用の関連については一致した結果が得られていない。ニューヨーク市 (NYC) の 59 の地域における、収入レベルと収入分布状態と薬物使用の有病率とその頻度の関連について、個人の収入と他の社会人口統計学的変数を調整して、評価した。</p> <p>方法：</p> <p>現在 (調査前 30 日以内) の薬物使用について、ランダムに電話をかけるという調査方法で NYC 在住の成人を対象に調査した。2000 年度の米国国勢調査のデータも使用して、地域の収入額の中央値と収入の分布 (Gini 係数を使用して評価した) を計算した。</p> <p>結果：</p> <p>調査に回答した 1355 人 (女性 56.2%、平均年齢 40.4 歳) のうち、23.9% がタバコを、40.0% がアルコールを、5.4% がマリファナを最近 30 日以内に使用したと回答した。経済的評価では、最も収入の多い地域に在住している人と最も幅広い収入分布の地域に在住している人が両方とも、アルコール (69.0%) とマリファナ (10.5%) の有病率が高かったが、タバコではそうではなかった。地域の収入レベルや収入分布とタバコとの関連は見られなかった。個人の収入、年齢、人種、性別と教育を調整した多変量モデルでは、収入額の中央値が高い地域と分布幅が広い地域は、有意にアルコールとマリファナ使用が高値だが、タバコではそのような関係は見られない。収入額の高い地域と収入分布幅の広い地域はいずれも、アルコール飲酒者においてアルコール使用の頻度が高かった。</p> <p>結論：</p> <p>このような結果は、アルコールやマリファナの使用について集団として評価する場合は、地域の収入レベルや収入分布が、個人の収入より重要な役割を果たすかもしれないことを示唆している。そして、薬物を使用するかどうかの決定要因により、薬物依存に至る可能性が異なるのかもしれないことを示唆している。今後さらなる研究により、地域特性と他の薬物の使用との関連を説明するための理論を探求するべきである。</p>	